



令和6年5月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

5月園だより

さわやかな季節になりました。園庭には、0歳児クラスの子どもたちも出てきて保育士の膝やゴザの上で遊んでいると、幼児クラスの子どもたちがじわじわと取り囲み、「かわいいね」「何て名前なの」と目を細めています。園庭のあちこちではどろんこの感触を楽しんだり、冬眠から目覚めたダンゴムシを探しては集めたりと、子どもたちの夢中な姿が増えている日々です。

さて先日、保育園にシルバー人材の方々植木剪定が入りました。ロープで仕切られ、安全を確保の上、遊べるのは園庭の半分程度です。遊んでいた乳児クラスが保育室に戻ったころ、保育室からも作業が気になっていた4歳児クラスの子どもたちが出てきました。事前に何が危ないと思うかを保育士と確認をしていましたので、ロープの外から大きな声は出さずに興味津々に作業を見つめます。邪魔にならないかと保育士が見守っていると、はじめは遠慮がちなが、次々に「何やってるの?」「高いはしごはどうやって持ってきたの?」「どうやってきたの?」と質問の押収に「植木の床屋さんだよ」などと丁寧に応えてもらい、道具を見せてもらったりと、子どもたちの興味は止まりません。落ち葉を吹き集める道具には、「わあ」と歓声があがり、「どこで買ったの?」との質問まで飛び出していました。一人が「きれいになりましたね」と大人びた声もかけていました。剪定が終わると、お一人が「今日はとても楽しく仕事できました。またここに来るのが楽しみだよ」と言ってくださいました。子どもたちにとっては日々何気なく過ごす園庭ですが、こうして人が関わり、手作業が行われていることが、温かく伝わったようで、とても嬉しく思いました。

先日は、保護者総会に多くのご参加ありがとうございました。今月からは各クラスの懇談会が始まります。クラスの子どもたちの姿や、保育の見通し等お伝えしたいと思っております。是非ご参加ください。



5月の行事予定

環境教室 (3, 4, 5歳児)
春の遠足 (4, 5歳児)
定期健康診断 (全園児)
避難訓練、身体計測

懇談会のお知らせ

・場所 ホール
2歳児 ひまわり組
3歳児 りす組
5歳児 きりん組
4歳児 うさぎ組

看護師より

先月から4歳児と5歳児の身体測定はクラス別ではなく男女別に行っています。プライベートパーツ (ゾーン) という言葉をご存じですか。他人が勝手に見たり触ったりしてはいけないところ (口、胸、性器、尻) のことで、幼児期から正しく理解することが大事とされています。毎年、卒園前の5歳児に一週間かけて体に関する話をして命の大切さを伝えています。今年は「赤ちゃんはどこから生まれてくるの」という質問を受け、妊娠や出産、性愛にまで踏み込んだ話をし、たくさん愛され大切にされてきたから元気に育っていることを伝えました。『性教育』と思うとハードルが高く感じるかもしれませんが、子どもの安全、健康、幸せを守るために大切なことなので、ぜひご家庭でも伝えていってください。

入園、進級から1か月経って…子どもたちの様子

0歳・ちゅうりっぷぐみ



園庭で保育士の膝の上に座ってボールをポンポンとたたいたり、腹ばいになってペットボトルの玩具を振ってみたり戸外でも安心して過ごせています。その姿を見て幼児クラスの友達が「かわいいね」と顔を覗き込み、優しく頬を撫でてくれます。保育士に抱っこされながら花壇の草花に触れたり、幼児クラスの友達が作って見せてくれた砂団子をじっと見つめてから手を伸ばしたりする姿も見られています。子どもと視線を合わせると、保育士の顔を見てにっこり微笑んでくれます。安心できる関係の中で、見る、触れる、探索するなど保育士と一緒に楽しんでいきたいと思えます。

3歳・りすぐみ



りす組の保育室で過ごすことが嬉しくて「ワクワクがいっぱいだね」と話していると「今日のワクワクは何？」と子どもが聞くようになりました。ある日「今日のワクワクは（すぐに園庭に出られるので）朝一番にお庭に出ることだよ」と伝えると「やった」と嬉しそうな表情を見せていました。「おやつ後もお庭に出るんだよね」「（夕保育は）お姉ちゃんとパーティーごっこする」と幼児クラスになったことへの喜びを感じています。着替えの時には甘えながら保育士と一緒にやる日もあり、張り切りながらも新しい環境にドキドキワクワクする子どもたちです。

1歳・たんぽぽぐみ



園庭に出ることが楽しみになっていくようで「お庭に行こう」と伝えると喜んで帽子を被りに行き友達と一緒に園庭に向かいます。園庭では保育士の真似をしてカップにシャベルで砂を入れてみたり、型抜きしたものや崩してみたりしています。保育士が桜の花びらを見つけて手の平に乗せ、ふーっと吹いてとぼしてみると、ひらひらと地面に落ちるのを見る子どもたちの表情が“楽しいね”と言っているように、にっこり笑顔です。楽しいと感じたことは表情に表れ、「もっかい」と言葉で伝え、何回も繰り返している子どもたちです。



4歳・うさぎぐみ



うさぎ組に進級し、自分たちがいた「りす組」に新しい友達がきました。りす組の友達が困っていたり、一緒に遊びたいという姿を見つけたりすると「一緒に遊ぼうか？」とそつと声を掛け、自然な関わりが見られます。一方で、日々葛藤しながら身の回りのことを自分でやろうとしている子どもたちには「やりたくないこと」「手伝ってほしいこと」等は言葉で伝えてほしいことを話しました。少しずつ自分の気持ちを伝えようとしています。思いを伝えられることが相手の思いを知る一歩になり、それが優しさにも繋がっています。

2歳・ひまわりぐみ



1人が牛乳パック積み木で乗り物を作り始めると、「〇〇もやりたい」と次々に友達が集まってきます。お手玉などで作った料理を保育士や友達にごちそうしてくれたり、作ったお弁当をリュックやバッグに入れ、乗り物に乗ってお出かけをしたりすることもあり、子どもたちの遊びがつながる瞬間もあります。「ここは運転するところね」とイメージを保育士や友達に伝えて一緒に遊ぶ中で、友達同士で「こうしたいの」「ちがうよ、こう」などと思いがぶつかることもあります。保育士が互いの思いを伝えることで、「じゃあ、いいよ」などと友達を受け入れる姿も見られるようになってきています。



5歳・きりんぐみ



人数報告やコット片付け、メダカの餌やり等、憧れていた当番活動が始まり、張り切って行っています。中でも、コット片付け当番は友達と2人組になって、用務や保育士と一緒に「手を挟まないようにね」「次はこっちのコットを片付けよう」と声をかけ合いながら慎重に重ねています。また、コットを片付けるだけでなく、寝ている年下の友達を起こしたり、布団を畳んであげたりと、年下の友達を気にかける姿が見られるようになりました。今まで自分たちが年上の友達に優しく接してもらった経験が今の子どもたちの姿に繋がっています。